

## 令和3年度第4回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

■日 時 令和3年10月26日（火） 18時～20時00分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

### 1 会議開催について

委員数20名に対して14名が出席しており会議は成立。

### 2 開会のあいさつ

（市長：副市長代読）

本日はお忙しい中、また、足元の悪い中御出席いただき、ありがとうございます。  
今日の会議は今年度4回目、また、推進会議最後の会議と伺っている。委員の皆様には、まち・ひと・しごと創生総合戦略を平成26年に策定してから、7年にわたり評価・検証、貴重な御意見をいただいていた。本当にありがとうございました。まち・ひと・しごと創生総合戦略については、今年度新たに策定した総合計画に一体的に織り込んだ形になっている。今後については、仮称であるが総合計画推進会議を設置し、新たな委員の皆様には評価・検証をしていただくことを考えている。皆様には、これまで行政に関わり、勉強されてきたことを生かし、今後もそれぞれの分野で御活躍いただきたい。これからも御健勝で、石巻市の持続発展のために御支援をいただきたい。本日は誠にありがとうございました。

（会長）

思い起こすと、もう7年経ったのかと感じる。皆様と一緒に、石巻市が復興計画を推進してきた中で、数値化できる事業に関して評価を行ってきた。短時間で事業を見極め、評価するということは非常に難しかったが、それが行政の皆さんに少しでも参考になり、我々民間の立場の者も市の事業がより分かるようになっていけば、大いにやってきた意味があると感じる。

今日は、評価シートの結果が出ているので、市から報告と、学生向け意識・希望調査の説明をいただくこととなっている。また、皆様のお手元にある市の総合計画の基本計画、とても大切な部分となっているのでぜひ読み込んでいただきながら、皆さんの御意見をよろしくお願したい。

### 3 議事

#### （1）報告事項

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証結果について

（資料1～5、8、9：SDGs地域戦略推進室より説明）

（委員）

資料4の北限のオリーブについて、現在までに生産から販売までの支援は市としてど

のような形で行ってきているのか。農作物は気候やコロナ等、様々な要因での変動があるかと思うが、そのような時代に合った支援はどのように行っているのか。

(事務局)

オリーブについては、これまでは実証的な位置付けがなされており、販売という位置付けまでは至っていない。販売については、今後、民間で進めていただく方向である。支援については、基本的な部分は補助させていただき、今後どのような方向性になっていくのか見据えながら、担当部である産業部の方で支援の在り方を検討していく。

(委員)

専修大学の教授が、このオリーブを飼料として銀鮭を育て、新しいブランド化へと動き始めている。多方面でこのオリーブの生産がキーになると思う。

(会長)

搾油したオリーブは、商用的な量には至っていない。だが、収穫した分のクオリティについては、東京のホテルや石巻の飲食店に分けてチェックしていただいたところ、評判はとてもよく、クオリティは高いようだ。東京のホテルからは今年収穫したものを買いたいというオファーまでいただいた。ようやく、軌道に乗る一歩手前まではきているのではないかと思う。

(委員)

資料9で、離婚件数が載っているが、現代ではそれぞれの生き方として、離婚がポジティブな意味で捉えられている面もある。そのような中で、市として離婚件数をどうとらえているのか。例えば離婚してひとり親家庭になると貧困の率が上がることもあるが、そういったことを考えての離婚件数なのか、載せている意味合いがあれば教えてほしい。

(事務局)

現状として、まず数字を抑える必要があると思いお示しさせていただいている。ここ数年は同じくらいの件数が続いている。それに対し、婚姻件数は徐々に下がりつつあり、今回は大きく下がった。若い方の離婚だけではなく、年齢を重ねた方の離婚もあるかと思うが、ここから何かつかんでいきたい。

(委員)

若い世代の課題として、事業継承の話題になることが多く、また、世代交代の話を最近聞く。トップの方が高齢になってきているが、40代くらいだとまだバトンが回ってきていない方が多く、もっと実力を発揮したいという話を家庭でしているとも聞く。石巻での世代交代の時期はどのあたりなのか。若い世代が活躍していくときに、バトンを渡しつつ、人材の育成をしていくことは、やりがいや活性化にもつながるのではないかと思う。

(事務局)

様々な方がやりがいをもって働くというのは大事なことである。また、女性の活躍ということもこれからはより大事になってくると思うので、現在市として取り組んでいる施策を今後も継続していきたい。

(会長)

若い方の離婚においては、養育費等の約束を守る男性が圧倒的に少ない。制度としてうまく考えていかないと、子育てをしていく女性が非常に不利益を被る可能性がある。

また、熟年離婚については、孤独の問題と向き合うことにもなる。事業継承についても、難しいが大事な問題である。

(委員)

資料8について、基本目標1の中で完了済の復興事業の割合と市民目線での復興の進捗意識に23%の差がある。この完了済の復興事業の割合は、市の事業分のみを指すのか。そうであるならば、市民目線から見ると、どれが国の事業で、県で、市なのかは分からない。資料の作り方として、その基準を合わせて対比した方が見やすいのでは。

(事務局)

完了済の復興事業の割合は市の事業のみを掲載しているが、街中では県の事業や国の事業でまだ継続しているものもある。それら全てを見たらうで、市民目線で68%となっているかと思うので、同じ視点に立てるような設定ということを今後に生かさせていただければと思う。

(委員)

大川小学校の問題で訴訟に参加した人は補償の対象となっているが訴訟に参加しなかった人は補償の対象となっていない。訴訟に参加していない人の中には、市と対立関係になりたくないという人がいる。今回は行政の責任であるので、被害者は等しく補償の対象にならなければならない。市民に対する親心がないことが情けない。

次に、何をするのもまずは財力がないといけないので、財政改革が必要である。石巻の場合は、農林水産系の課と、経済産業系の課となっている。これを充実させるために、これらの部署を拡充し、農林水産系の部と経済産業系の部に分けるべきだと思う。産業部を強化しないと財源の確保にはならないことを理解してほしい。

それから、無駄を省くためには、公立病院は経営が難しい。市立病院において、早急にプロジェクトチームをつくり、医療改革の在り方について考えてもらいたい。

また、桜坂高校の存続について、女子高に石巻市が固執する必要があるのか。本来であれば、県立の高校があり、それでは足りないから市立の高校を設置したので、財政がひっ迫すれば市立の高校はやめて、県がやるべき。これもプロジェクトチームを作り、しっかり議論する必要がある。私はやめるべきだと思う。

そして、子どもに郷土愛を持たせる教育が必要である。地元を誇りを持たせるためには、教育委員会を中心として、地元の人を活用した教育の在り方を教育者と市民とで共有し、どうやって子どもを育ててこの町の人にしていくか考えることが大切である。そのためには、石巻に定着してくれる先生に関わってほしい。市民も含めて子どもの人材育成をすべきと思う。石巻の中で協力・協調の精神を作らなければいけない。

事業承継についても、産業が発展して雇用が確保できない限りは事業承継もできない。

石巻は自然を対象とした農林水産が主体であるので、人材の在り方も含め、総合的に、幅広いテーマだけではなく、これからはテーマを深めてほしい。

(事務局)

大川小学校について、これはあくまで民事訴訟である。その結果を受けて、訴訟を起こしていない方にも補償することは法律上においても非常に難しい。その他の被災者の方はどうなるのか等、そこはこれまで国全体で支援の在り方を考えて進めてきた。この部分については非常に難しいところであるので、御理解いただきたい。

産業部の件や教育の件でも御指摘いただいたが、様々な考え方がある中で議論を重ねながらより良い方向に進めていくのが我々の仕事であるので、頂いた御意見についても、関係各課に情報を伝えながら仕事に反映できればと思う。

(委員)

様々な考えがあるのは分かるが、テーマを出さないとテーブルに乗らない。行政に必要性の認識があるのであれば、テーマを出してほしい。大川小学校の問題は、どのような理由で法律上の問題があるということを確認しているのか。補償しなくてはいけないのではないかという発想が無いことが私はおかしいと感じる。切り捨て論理ではなく、自分がその立場だったらと考えることが市民と行政が一体となる原点だと思う。

(副会長)

例えば、上品の郷や石ノ森萬画館の入館数のところで、集客対策に努めてまいりますというような市の回答があるが、「指定管理者と協議を重ねて」というような、指定管理者に触れるような市の回答があってもよいのでは。まるで市が単独でやっているように見えて違和感があった。

次に、今、市内の町内会が大変困った状態になっている。高齢化等で、役員も務めていただけない。推進力のある方がいる町内会は進んでいくが、そのような方がいなくなると、途端に何も進まなくなる。私の所属する町内会も人数が減り悩んでいるが、市側から少しヒントをいただきたい。町内会同士で切り出すのは、町内で財産を持っていたりすると難しい。町内会が色々なものを支える土台になるのではないかと思うので、ヒントをいただいて、町内会をしっかりと再編し、石巻の土台をしっかりとしていくことがこれから必要になると思う。

(事務局)

1つ目の御意見について、その通りであると思う。市の施設であっても指定管理者と一緒に運営しているので、今後の会議等の中で、注意していきたい。

町内会については、我々としても市の一番の課題だと認識している。少子高齢化がどんどん加速していく中で、国もこれまでの町内会のコミュニティの大きな変換点に来ていると考えている。地元の町内会がどうあるべきか、どうしたら存続できるのか、住み続けられるのか、そこを新たなテーマとして地元の方々と話し合いながら、人数が少なくなれば統合できないかというような街づくりを、市長を含め担当課で話をしている。

## イ 令和3年度 学生向け意識・希望調査結果について

### (資料6、7：SDGs地域戦略推進室より説明)

(委員)

まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議で検討されてきた項目は、大きく分けて2つあると思う。1つは、初めから設定されている項目、もう1つは会議の中で新たに明らかになってきた検討しなくてはいけないと思われる項目。この両方をしっかり受け止めて、次の会議へと生かしていくシステムが生まれれば、もっとこの会議は現実に沿ったディスカッションと成果を望めるのではないかと感じた。この会議は今回が最後になるが、第二次石巻市総合計画の色々な部分に組み込まれていると思う。ここに掲載されている項目だけが検討のポイントになるものではなく、会議の中で生まれた新しいものも柔軟に取り入れて考えていくような基本的な方針が重要ではないかと思う。検討をお願いしたい。

(事務局)

新しい総合計画の基本計画の中に、まち・ひと・しごと創生総合戦略は人口戦略と名前を変えて溶け込んでいる。今後、新たな会議体において評価・検証を続けていくこととしているので、その中で、柔軟な対応というものを参考にさせていただきたい。

(会長)

最後の会議ということで、本日まで御発言をいただいていない方から一言いただきたい。

(委員)

最初から関わらせていただいて、7年になる。私は子育て支援センターにたくさん関わっていて、とても充実していると感じていたが、コロナになってから、人数制限等でなかなか人が集まらない状態である。このままお母さんたちが子育て支援センターや集まりに出てこないのではないかと非常に心配している。ずっと家にいる影響で、虐待に繋がるのではということも危惧している。

この会議に参加して、色々な人たちに出会えたことが、とても良かったと感じている。

(委員)

今思うとあつという間であり、大変勉強になった。被災した集落跡地の低平地活用について、今年度から色々な地区で模索が始まっているが、これは復興事業とはまた別の位置付けという考えでよいのか。

(事務局)

復興事業は、国からの復興交付金を財源にして進めてきたが、一部を除いてそれは活用の期限が切れた。その中で、残った課題の移転元地の低平地活用について、市の独自財源である復興基金を財源に活用しながら進めていこうとしているので、これまでの復興事業とは違う形で進めていく。

(委員)

石巻市全体でみると恐ろしい平米数の被災元地がある。その中でも浜にある部分が多く、浜というのは山ともつかず、海ともつかず、大地や海や川にとっては大事な場所である。これだけ海・山・川が豊富にあることは素晴らしいと毎年感じている。

学生向け意識・希望調査の自由記述でも、自然景観を見ている子がいることが伺える。復興事業では人命が最優先であり、景観まで思い至ることができなかった。それは仕方のないことであるが、地域で関わる中で、復興事業は我々の世代を中心に考えて進めてしまったという反省がある。その上で、10年後、20年後の子どもたちにとって、どのような環境を残していけたら良いのかということ、被災低平地の活用ということもひっくるめて、ガイドラインだけではなくてプロジェクトチームのような形で考えていけば良いのでは。

(委員)

7年間、本当にありがとうございました。釜石市への研修等、色々な勉強をさせていただいた。SDGsについても、今後の雄勝町での活動の中で生かしていきたい。

事業継承についても、後継者不足は身に迫る思いがある。後継者がつながるように、市でも知恵を出していただき、民間でも情報交換等をして対応していかなければならないと感じている。

先日、まちづくり委員会で市の予算等の話を伺った。震災直後のグループ補助金について、大きく借りられるが返すのは少しいいという話を聞いた。将来的に人口が増えるわけではない、税収が増えるわけではない、そのような中で大丈夫なのか心配になった。

この会議での意見をまとめていただきながら、未来が明るい石巻にしていただければと思う。

(委員)

今年から会議に参加させていただいた。最初の方は、職員の方々が一生懸命事業に取り組んでいることを、我々が評価して良いのだろうかという疑問があった。評価するにあたっては、事業について分からないのに評価はできないというジレンマがあった。勉強する中で、石巻の将来をどうしていったら良いのかということは、非常に難しい部分があった。事業については、将来の石巻の人口を少しでも減らさないというビジョンを作成するものである、その目標に向かって進んでいただきたい。

(委員)

今日は大学で市長の講義があった。そこでは学生から質問がたくさん出ていて、若い人たちの発想、考えていることは実はたくさんあるんだと感激した。市長にそこを引き出してもらったように思う。

「まち」をどう捉えているのか、人それぞれ思いがあるかと思うが、私はそれぞれが住んでいる小さな範囲でのまちが活性化することが大切だと思っており、「ひと」というのは、未来を託された子どもという視点で見ると発言させていただいてきた。今日の市長の講義やこの会議の資料を見ると、石巻は世界に誇れる石巻になると感じている。マイナ

ス面を見続ければマイナスにしかならないが、良いところは実はたくさんあり、見ようとすれば、気付かなかったところでもたくさんあることに気づいた。

(委員)

2年目になるが、最初は全然内容が分からなかったが、最後の方になってやっと分かってきた。石巻のために皆で話し合ってきて、良い方向になるだろうと感じられ、素晴らしい会議だと感じた。

(委員)

今年初めて参加したが、これまで一主婦であり、このような世界があるとは分からなかった。私が評価なんてできるのか、どうすれば良いのか全く分からず、とても悩んだ。

でも、話を聞いていて、皆さんがこれほど石巻に対して真剣に考えてくださっていると知り、私がこれまで石巻で穏やかに過ごせていたのは、このように一生懸命に考えてくれる方達がいるからであると、とても感じた。皆様、どうもありがとうございました。

(委員)

石巻にきてまだ1年未満であり、このように皆様の前で話すのはとても恐縮であるが、皆さんの石巻を良くしたいという熱い気持ちがひしひしと伝わってきて、私も負けていけないという気持ちになった。金融機関の人間として、お手伝いできる部分が多々あると感じたので、支店に持ち帰り、共有したいと思う。

また、今後石巻市が持続的な発展を遂げていくためには、若い人達が石巻に戻りたい、石巻で働きたいという気持ちを持ち続けることが大事かと思うが、この学生向け意識・希望調査はとても興味深い結果だと思う。この結果をどのようにして生かしていくかが大事だと思うので、よく御検討いただきたいと思う。

事業承継に関しては、我々金融機関の人間としても、喫緊の課題だと認識している。人材の派遣、あっせんについても最近は特に力をいれているので、気兼ねなく御相談いただき、周りにも周知いただければと思う。

先ほど横江先生のお話にもあったが、今後は若い人たちの意見を取り入れていく必要があると思うので、このような会議のメンバーにも、10代・20代の若いメンバーを抜擢する必要があるのではないかと思う。

#### 4 その他

(事務局より配布した総合計画基本計画について説明)

(会長)

以上で私の議事進行を終わらせていただくが、皆様7年間本当にありがとうございました。今日お集まりいただいた方々は、それぞれの地域の、あるいは業界の代表の方々であるので、ぜひ、今後も御意見があれば市の門戸を叩き続けていただきたい。

また、我々は民間の立場にいるが、それぞれの分野で引き続き努力していきながら、若

い人材も育てていければ良いのかなと思う。皆様のそれぞれの分野での今後の御活躍を願う。ありがとうございました。

## 5 閉会あいさつ

(副会長)

7年間、ありがとうございました。我々の会議体はなくなるが、総合計画の推進会議として評価・検証が続けられるとのことである。より良い石巻市になるために、次の会議の方達にも頑張っていたいただければと思う。

この会議が立ち上がった時、行政も我々も初めてのことで、どうしたら良いのか非常に悩んだ。途中から入られた方は本当に大変だったのではないかと思う。そのような中で、皆さん御参加いただきありがとうございました。行政の皆さんにも丁寧な御説明をいただきありがとうございました。何よりも、この会議を引っ張ってくださった後藤会長、本当にお疲れ様でした。それぞれの地区、企業を代表してきている我々の、1つ1つの指摘が市には必要だったのだらうと思うので、ここを離れても、皆さんの目で気づいたことがあれば、ぜひ市の方にお話しただければと思う。

また、皆さんとお会いできることを楽しみにしている。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

(事務局)

長い方だと7年間、皆様にはこの会議に御参加いただき、本当にありがとうございました。会議の在り方についても、評価の部分のまっすぐな御意見等、皆様からは様々な御意見をいただいた。闊達な議論が交わされたこの会議の進め方は、関わってきた我々にとっては1つの財産だと思っている。直すべきものは直しながら、この財産を次の総合計画の評価、会議の在り方にも引き継いでいきたい。本当にありがとうございました。

## 石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿

(令和3年10月26日)

No.	氏名	所属	備考
1	安住 栄一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	副会長 出席
3	荒木 裕美	NPO法人 ベビースマイル石巻	出席
4	伊藤 桂子	桃生地区住民代表	欠席
5	井深 修一	株式会社七十七銀行石巻支店（代理：村上様）	出席
6	岩井 美喜子	石巻市町内会連合会女性部会	出席
7	木村 美保子	NPO法人 いしのまきNPOセンター	欠席
8	後藤 宗徳	一般社団法人石巻観光協会	会長 出席
9	西條 拓也	いしのまき農業協同組合	欠席
10	佐藤 秋子	いしのまき農業協同組合	出席
11	佐藤 清子	河南地区住民代表	出席
12	佐藤 尚美	北上地区住民代表	出席
13	杉浦 隆浩	一般社団法人 石巻青年会議所	欠席
14	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
15	高橋 真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	中川 尚仙	石巻商工会議所	欠席
17	芳賀 信幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
18	畑山 實	連合宮城石巻地域協議会	欠席
19	堀井 栄	河北地区住民代表	出席
20	横江 信一	石巻専修大学	出席

### アドバイザー

	鎬木 祐人	総務部総務課 法制企画官	欠席
--	-------	--------------	----